

浸水対策や巡回バスの早期実施・住宅リフォーム助成など 新年度予算 108項目の市民要望を市長に提出

日本共産党江南市議員団は11月30日、市長に対し108項目にわたる2012年度予算要望書を提出しました。

堀市長、石川副市長、社本経営企画部長と懇談し、新年度予算に反映するよう求めました。

3月11日の東日本大震災や8月のゲリラ豪雨による浸水被害など、2011年は市民の生命とくらしを守る安全安心なまちづくりの重要性が問われた年でした。

要望項目は、

- * 防災計画の見直しや浸水対策に思い切った予算を。
- * 住宅リフォーム助成制度の継続。
- * 市内に巡回バスを早急に走らせること。

- * 子どもの医療費無料制度を中学卒業まで拡大すること。
- * 防犯灯の設置と管理は公費負担とすること。
- * 黒字続きの水道料金を値下げすること。
- * 鉄道高架事業では、事業費の縮減に努めるとともに、エスカレーターの設置などは国・県・名鉄に対し負担を求めること。
- * 合併浄化槽の設置費補助金は、汲み取り便槽や、単独浄化槽からの転換に補助を手厚くし、転換を促進すること。など いずれも市民の声に基づく切実なものです。

○ 要望書の全文は、日本共産党議員団のホームページで見ることができます。

曼陀羅寺の 観音菩薩像などから貴重な胎内仏

曼陀羅寺には数多くの貴重な文化財がありますが、この程 曼陀羅堂内の曼陀羅尊厨子前に立つ脇侍仏の「観音菩薩像」と「勢至菩薩像」の修理中に、この2体の仏像の内部に「胎内仏」が納められていることがわかりました。

江南市は、両菩薩像とともにこの胎内仏を、市の貴重な文化財として指定し、12月議会に、胎内仏の修理費・約497万円のうち2分の1の248万7千円を補正予算として提出し可決されました。

この胎内仏は、約55センチメートル、室町時代の作とみられ、すでに京都にある美術院で仏像の詳しい調査と、修理が行われており、来年早々には修理が完了し、藤まつりの折には、見学することができます。



木造観音菩薩像の胎内仏

ほんとに 任せられるの



古知野児童館と藤ヶ丘児童館の管理をこれから5年間、引きつづきNPO法人キッズサポートに指定する案が12月議会に提案されました。

約3年間の実績があり、特に問題もないからということですが、この3年足らずの間に10人の理事の内4人が辞任し、副理事長も空席のまま。

特に4人の辞任した理事は、元園長など元市職員で、2館の館長・館長代理を務めていました。それぞれの児童館では、職員のみなさんが一生懸命子どもたちの豊かな成長のために努力していますが、市主導で作った急ごしらえのNPO法人に、5年間も任せられるのか、問題点を指摘し反対しました。

3人の議員の 一般質問に 多くの傍聴者

12月8日 かけの議員
9日 東・森議員が
一般質問しました。

それぞれ後援会のみなさんが3階の傍聴席で、質問と答弁を熱心に傍聴しました。

3月議会もみなさん
ぜひお出かけください。



職員の不祥事で 市長と副市長が1ヶ月の減給処分



すでに報道されているように、東日本大震災の支援物資の一部を、長期にわたって放置し、職員同士で持ち帰るといった不祥事が発覚しました。

市民の善意を踏みにじるあつてはならないことが起きてしまいました。

12月議会の最終日(19日)に、市長は自らの監督責任として、減給10%・1ヶ月、副市長は5%・1ヶ月にすると「給与等の特例を定める条例」を提出し、可決されました。

なぜこうした事態を招いたのか。個々の責任だけではすまされない問題があると言えます。

市長が推進してきた集中改革プラン(構造改革)により、5年間で110人もの職員が削減され、窓口

は切れることなく訪れる市民の相談で追われ、職場内は、非正規職員の比重も高まり、職員同士のコミュニケーションや連帯感が希薄となり、物事を相談しながら進める環境が少なくなって来ているところにあります。

改めて構造改革路線の見直しを求めました。

一度失った信頼を回復することは大変なことであり、地方公務員法でうたわれている「職員は全体の奉仕者として、公共の利益のために勤務し、職務の遂行にあたっては、全力をあげてこれに専念しなければならない」の根本理念に立ち返って、各職場をはじめ市役所をあげての真剣な取り組みが求められています。

職員への処分は、後日発表されます。